

女川町復興まちづくり住民説明会（バイパス仮設集会所（西）） 議事録

日 時：平成24年1月28日（土） 13：00～15：00

場 所：バイパス仮設集会所（西）

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 黄色いエリアのところ、大原2区に住宅を考えているのか。元はそこに住んでいたが、今後そこに住まなければならないのか。
- A. 黄色いエリアは住宅を計画しているところ。どこに住むかについては今後意向調査を行う。
- Q. 被害にあったところは町で全部買い上げるのか。黄色いエリアの地権者でも買ってもらって別なところに行きたいということは支障ないのか。
- A. 買い上げるのは、まずは住宅地。どこにという進め方については今後の検討が必要。
- Q. 黄色いエリアが不利にならないようにしてほしい。
- A. どういう選択肢があるのかを示した。どうしていくかは今後のアンケート等によることを理解してほしい。
- Q. 災害復興住宅に住む人は何人くらいいるのか。
- A. 1回目のアンケート調査をもとにすると、全世帯数に対して3割弱。具体的な数では650から700戸が最低必要ではないかと思う。
- Q. 災害復興住宅に関して、1DKは造らないで欲しい。心外である。一人暮らしでも、二部屋は欲しい。
- A. 公費で建設するので、ルールとして一人暮らし用の仕様はそうなることを理解してほしい。そういう声があることは承知した。
- Q. 生活の■■が出てきているように聞いている。災害復興住宅の建設を一日も早く着手して欲しい。
- A. 生活の■■ということで、狭さもひとつの要因だと思う。仮設の広さについては、何とか現状で頑張ってもらいたい。
- Q. 旭が丘でも地割れ等があるようだ。造成については万全を期してほしい。
- A. しっかりした技術での造成をやっていく。
- Q. 今後の居住地については、以前の場所の近くを希望している人が多いと聞く。それについての配慮をお願いしたい。
- A. 地域性にも配慮しつつ、公平性、早く確保したいという方のニーズに応えられる方法を考えていく。
- Q. 高台の地権者との話し合いがスムーズにいかないときはどうなるのか。

- A. 先行の予定地については協議を開始している。現在のところ順調に進んでいると認識している。
今後、区画整理事業が必要になるが、地権者の方から理解と協力をもらうことを大前提でやっていく。
- Q. かさ上げはどの程度行うのか。
- A. 国道 398 号線を防潮堤の代わりにする計画。国道と同じ高さの 6 メートルくらいまで盛土をする。
- Q. 50 坪程度に小さい家を建てて住みたいという高齢者世帯があると思うが、どうか。
- A. どのくらいの規模が必要かということを意向調査の中で確認させてもらう。
- Q. 住宅用地の確保が難しい状況だと思う。第 1 小学校と第 2 小学校を統合して、第 1 小学校跡地を公営住宅用にするという考え方はどうか。
- A. 学校の将来の在り方については、まちづくり協議会の議論の中で考えていくことになる。学校用地を早期に解体して住宅地にするという考えは今はない。
- Q. ここ 2, 3 年は 1 小、2 小という形でやっていくということか。
- A. 少なくとも、ここ 1 年は同居の形でやっていく。25 年度から先のことについてはあまり遅くならない段階で決定していく。

以 上